

企画・編集：五味達哉 東邦大学医療センター大橋病院 放射線科

五味直哉 がん研究会有明病院 画像診断部

## 序 説

遺伝性腫瘍として家族性大腸腺腫症，遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)，Lynch症候群，Li-Fraumeni症候群などの病名は思い浮かぶが，実際に遭遇する機会はまれで，その都度本で調べることで対処しているのが多くの放射線科医の実状であろうかと思われる。疾患の細かい知見は必ずしも要求されてこなかった。しかし最近特定の遺伝性腫瘍の原因となる遺伝子を調べる検査の一部が保険適用となり，また多遺伝子パネル検査の普及により状況が急激に変化してきている。遺伝子検査により見つかった未発症の遺伝子変異陽性例に対して画像診断によるサーベイランスが行われる場合は，その運用，読影に放射線診断医が積極的にかかわることが求められ，それが早期発見，早期治療，予後に直結する。遺伝性腫瘍にみられる遺伝子変異が偶発的に見つかる機会も増えており，重複癌の検索や予防的アプローチなどで放射線診断医が貢献できる場面も増えている。まさに放射線科医が担う新たな使命といえる。

本特集では遺伝性腫瘍の基礎の基礎から遺伝性腫瘍診療の意義，放射線科医の役割について新川裕美先生らに大変わかりやすく解説していただいた。Li-Fraumeni症候群のサーベイランスについて幅野愛理先生らに遺伝の専門家の立場からその重要性，サーベイランス実施による生存率改善について説明していただいた。前立腺癌の遺伝的リスクについて画像診断の関連を含めて長谷川 誠先生らに解説していただいた。横山幸太先生らには消化管の遺伝性疾患について貴重な症例を複数提示していただき実臨床に直結した知識を得ることができた。遺伝性脾腫瘍の画像診断について五味達哉らが解説した。遺伝性卵巣腫瘍について放射線科医が知っておくべきリスクとマネジメントについて田中優美子先生に解説していただいた。HBOCのサーベイランスについて五味直哉らが解説し，またHBOC以外の遺伝性乳癌については乳癌発症の浸透率が高いLi-Fraumeni症候群について菊池真理先生らに解説していただいた。増本智彦先生には脳腫瘍と遺伝子の関連について最新の2021年のWHO分類を基に解説していただいた。

本特集をとおして遺伝性腫瘍と放射線科医のかかわりの直近の将来像が少しでもイメージできれば幸いである。

五味達哉・五味直哉